カンボジアから学ぼう 感じよう 考えよう

学 校 名:箕面市立彩都の丘学園

(箕面市立彩都の丘小・中学校)

名 前:中嶋 香菜(保健体育)

実践教科:総合的な学習の時間・

道徳・学級活動

指導時数: 4時間

对象学年:小学5.6年生,中学1年生

対象人数:50人

1. 教師海外研修を通して感じたこと

教師海外研修は、ただカンボジアにいって「はい。終わり」ではなく、事前と事後の研修が充実しているということが最大のメリットである。参加型授業の種類や実践方法を学び、実際に自分たちがやることで、授業で使える教材としての学びを深めることができた。また、同じく参加した先生方との新たな繋がりができることもメリットのひとつである。とても刺激になる研修だ。

2. カリキュラム

(1) 実践の目的・背景

目的は、3つある。一つは、世界へ目を向ける視野を持ってほしいこと、二つ目は、国の違いや繋がりを感じることである。三つ目は、多文化に触れることで、自己の考え方の幅を広げることである。自分の目で見て体験したこと通して私自身が感じたことを子どもに伝えたかったので、5年生・6年生・7年生に協力いただき4時間の授業を実践した。多くの先生が授業の組み立てから関わって、教材や1時間の流れなどを吟味した。そのおかげもあり、子どもたちに伝えたいことは何かということをさらに考えるきっかけにもなった。

(2) **授業の構成** ※全てグループ活動

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目 カンボジアを旅しよう * カンボジアの興味関心を湧きたてる。	 ●学校とカンボジアの位置を確認する。(グーグルアース) ●カンボジアと聞いて知っていることを班で考える。(ブレインストーミング) ●カンボジアの豆知識を紹介(人口や平均寿命、地理の様子など) ●フォトランゲージとモノランゲージをしてカンボジアの文化に触れる。 	パソコンプロジェクターグーグルアースパワーポイント写真(6枚)カンボジアのモノ(6個)振り返りシート
2 時限目 カンボジアの学校の様子って? * 日本とカンボジアのつながりや違いについ て学ぶ。	●学校クイズの開催!(グループ活動) カンボジアの学校にまつわるクイズ から、カンボジアの教育の現状や問題について触れるとともに、日本人 の活躍についても触れる。 ●カンボジアの学生や児童の大切なモ ノの映像を見せる。 自分たちと似ているところ違うとこ ろを考え感じる。	パワーポイント紙マジックプロジェクター大切なモノの編集した映像振り返りシート

3 時限目

AKIRA の生き方

* アキ・ラーさんの地雷撤去の様子やなぜそのような活動をすることになったのかを通して地雷の怖さやこれからについて考える。

- ●アキ・ラーさんの写真を紹介し、名前から何か結びつくものを考える。 →モノランゲージで使用した、地雷の模型に書いてある文字「AKIRA」を思い出させる。
- ●地雷撤去現場の話をする。
- ●地雷の現状と恐ろしさについて学ぶ。
- ●アキ・ラーさんについての考えをさらに深める。(映像の使用)
- ●悪魔の兵器「地雷」はなぜ作られた のかグループで考える。
- ●アキ・ラーはお金にならない地雷撤去をなぜ行うのだろうか、グループで考える。
- 地雷の知識とアキ・ラーの生き方の 背景を深める。(映像の使用)

- 地雷の模型
- アキ・ラーさんの写直
- ●映像(編集)
- ●振り返りシート

4 時限目

カンボジアについてみんなで話して みよう

- * 今までの内容を振り返ることで、カンボジ アについての知識を定着させるとともに、 それぞれの着目点も違うことを学ぶ。
- 3時間行ったキーワードをどんどん 出させる。(ブレインストーミング)
- ●ダイヤモンドランキングを使い、どのことが一番印象に残ったのかを個人で考えグループで交流する。
- ●班で出た意見を全体で共有する。
- ●ワークシート
- ●振り返りシート

3. 授業の詳細

1時限目:カンボジアを旅しよう

ねらい…カンボジアについての興味関心を湧きたてる。 もっと知りたいという気持ちを引き出す。



◆内容◆

常にグループで活動する。※6班作成(1班8~9人)

- ① 学校の位置とカンボジアの位置を確認する。 (グーグルアースの使用)
- ② ブレインストーミング 1 分実施 カンボジアと聞いてみんなは何を思い浮かべる のかな。
- ③ カンボジアについての豆知識をパワーポイントで紹介。
 - ・アンコールワットの話 ・面積
 - ・人口 ・平均年齢、寿命
- ④ フォトランゲージ、モノランゲージ。班で1枚の写真と1つのモノについて交流する。写真は日本と違うところ、また何をしているのかを話し合う。モノは、何に使われるのか考える。発表者、記録者を決め実施する。
- ⑤ 各班で発表。様子やエピソードを語る。
- ⑥ 振り返りシートの記入









▲ フォトランゲージで使用した6つの写真



▶考えている 児童生徒の様子



素直な児童生徒であるため、私が行ったことを全て受け止めてくれる。素直に驚き素直に疑問を持つので、大変活発的にワークに取り組むことができた。また、見たこともない写真やモノを使うことが、児童生徒の興味関心を湧きたてていた。



- ▶カンボジアの事はあまり知らなかったけれど今回で少し知ることができた気がしました。まだ授業があるということで、もっともっとカンボジアのことを知れそうなのでとても楽しみです。(中1女子)
- ▶ぼくは初めてカンボジアの道具を実際に見て、触ることができました。緑色の物の答えを聞いたら「地雷」と言っていたので、えっそんなすごい物だったんだと思い感心しました。(小5男子)
- ▶日本と違うところがたくさんあって、とてもおもしろかったです。カンボジアに行きたいという気持ちが大きくなりました。(中1男子)

2時限目:カンボジアの学校の様子って?

ねらい…児童生徒が身近な学校の文化や現状を知り、カンボジアをより身近に感じさせる。

日本とカンボジアのつながりや違いについて学ぶ。

◆内容◆

- ① カンボジアクイズの開催!全8問のクイズで、日本とカンボジアの学校や児童の様子を深
 - ・就学率 ・児童がいいなと思う先生 ・将来の夢で多いもの ・二部制で学校が運営されている など
- ② CJCC の大学生とワットボー小学校の児童の「大切なモノ」を見よう。

私が見て感じたことを話した後に、大切なモノの絵を音楽に乗 せてみた。

自分たちと似ていたところ、違ったところを交流し、よりカンボジアを身近に感じ、世界とのつながりを感じさせた。

③ 振り返りシートの記入



▲クイズをしている様子





- ▶前の授業の時よりカンボジアを身近に感じました。小学校に行っている子が思ったよりも多くて驚きました。(中1女子)
- ▶カンボジアのクイズでいろんなことを知れて良かったです。カンボジアの人は絵が 上手いことにびっくりしました。ぼくも1度でもカンボジアに行ってみたいです。 (中1男子)
- ▶私たちは学校に行って、勉強もたくさんできるから、ちゃんと勉強してカンボジア の人たちに少しでも元気をあげられたらいいと思います。(小5女子)
- ▶カンボジアの人は会ったらニコっとしてくれると言った言葉が心に残りました。カンボジアの子は優しいんだなぁと思いました。日本の人がカンボジアにエールを送り、カンボジアがいい国になればいいなと思います。反対に、日本がいいところをまねて、どちらもいい国になればいいと思いました。(小5女子)

3時限目: AKIRA の生き方

ねらい…アキ・ラーさんの地雷撤去の様子やなぜそのような活動をすることに なったのかを通して地雷の怖さやこれからについて考える。

◆内容◆

- ① アキ・ラーさんの写真 名前から何か結びつくものを考えさせる。 →モノランゲージで使用した、地雷の模型に書いてある文字「AKIRA」を思い出させる。
- ② 地雷撤去現場の話 現地を見学させていただいた時の写真を見せながら、私自身が感じたことを伝える。
- ③ 地雷の現状と恐ろしさについて学ぶ。
 - ・世界に埋まっている地雷の数
 - ・20 分に 1 人は犠牲になっているという現実
 - カンボジアで埋まっている数
- ④ アキ・ラーさんについてさらに考えを深める。(映像の使用) AKIRA 博物館で入手した日本語版 DVD の使用。前半のみ見せる。
- ⑤ 悪魔の兵器「地雷」はなぜ作られたのかグループで考える。 人を殺すためでなく、傷つけ、苦しませ、傷害を負わせるために作られた兵器であることを知る。
- ⑥アキ・ラーはお金にならない地雷撤去をなぜ行うのだろうか、グループで考える。
- ⑦ 映像で、地雷の知識とアキ・ラーが地雷撤去をした背景を知る。(映像の使用) アキ・ラーは自分が兵士となり、地雷を埋めていた側であった。(クメールルージュの話にも触れるので、残酷なカンボジアの歴史も知る) その、自分の過ちを正す為に、地雷で被害にあった子どもを引き取ったり、自らが地雷撤去作業を行っていたりすること知る。今もなお地雷で苦しむ人々がいることも合わせて知る。
- ⑧ 振り返りシートの記入

ココがポイント!

アキ・ラーの DVD を途中で切り、児童生徒に考えるきっかけを与えることで、さらに地雷への知識理解につなげた。



- ▶ 地雷を撤去してくれる方がいるのだから、私たちもなにかできないかなと授業中に 思いました。そして、自分の国は地雷がないからいいけど、同じ「人間」が「人間」 に傷つけられるのは本当にいけないことだと思いました。(6年女子)
- ▶日本も、未だに苦しんでいる国などに、どんどん支援していかなければならないなぁと思いました。そのためには、日本の政治をもっと勢いづけないといけない(中1 里子)
- ▶地雷の話を聞いて私はとっても悲しかったです。地雷は戦争の次に怖いと思います。 今は地雷を撤去する機械があると聞いて少しだけ安心しましたが、地雷を作ること を禁止にしていないことがショックでなりません(小5女子)
- ▶ アキ・ラーさんのように地雷の被害にあっている子どもたちを育てたり、自分の命をかけてまで人々を地雷から守る人がいるなんて凄いです。たくさんの時間がかかると思うけれど、世界中にアキ・ラーさんのような平和を愛する人が増えて、人々がみんな笑顔でいれる日が来たらいいな。(小5女子)

4時限目:カンボジアについてみんなで話してみよう

ねらい…今までの内容を振り返ることで、カンボジアについての知識を定着させるとともに、それぞれの着目点が違うことを学ぶ。

◆内容◆

- ① これまで3時間行ったキーワードをどんどん出させる。 ブレインストーミング
- ② ダイヤモンドランキングを使い、どのことが一番印象に残ったのかを個人で考えグループで交流する。
- ③ 班で出た意見を全体で共有する。





- ▶僕はカンボジアがとても好きになりました。もうなんか、日本とカンボジアが連合して、同じ国になって、タコとクモ以外の食べ物やお金を分け合いたいなぁと思いました。「僕は箕面市民であり、日本国民であり、カンボジア国民であります。」と言える日がくるといいです。(小5男子)
- ▶今回でカンボジアの授業は終わりなので、私的にはもうちょっと続いてくれても良かったと思った。楽しかったです。カンボジアは国内戦やポルポトなどの被害があって、たくさんの人が亡くなって、そしてまだ地雷があるのがとても印象的に残っています。(小5女子)
- ▶カンボジアの子どもが一番印象に残りました。先生が言っていたこと「商売している子どもたちが遊んでとよってきた」そのことがとても印象的でそんな商売している子どもたちもやっぱ日本の子どものように遊びたいんだなと思ったからです。もっと知りたいと思うことができました。(中1女子)

◆所感◆

子どもたちが意欲的に取り組み、また素直に物事を受け止めてくれるので、やりがいを感じた。4時間しかとることが出来なかったので、カンボジアを知ることに重きを置いた授業となったが、子どもたちから「カンボジアに行きたい」「カンボジアと日本がもっとつながったらいいな」「カンボジアを身近に感じた」という意見が出たことが良かった。「自分たちにできることはないのか」と考えてくれる子も出てきていた。また、職場の同僚教諭も大変協力的で授業を組み立てる時のアドバイスや流れの持っていき方なども、教えていただき勉強になった。また、先生同士が繋がれるきっかけともなったと感じている。

4. 成果と課題

成果としては、教師海外事前研修で学んだ参加型授業のいくつかを実践することができたこと。また、カンボジアの授業を組み立てるにあたって、同僚教職員が協力してくれて、授業のあり方や授業の流れをさらに深めることができたことが、自分の自信となった。また、自分がカンボジアに行ったことで、具体的に体験できたことを児童生徒に伝えることは、児童生徒自身の心にも響き、さらに学習の深まりになると実感した。児童生徒が、もっと知りたかった、カンボジアに行ってみたいという意見が出たことが非常にうれしく、カンボジアをより身近に感じてくれたようだ。私の学校は小中一貫校であるため、異学年でグループを組み授業を展開したことも、様々な角度から見ることができ、さらに学びの深まりにつながるものとなった。今後も、開発教育に取り組み、さらに良い教材をとおして、児童生徒に伝えていきたいと考える。課題は、「持続可能な開発」という視点をもう少し入れ授業を組み立てることである。

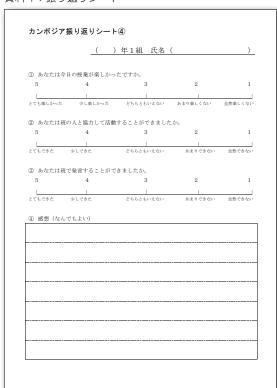
参考文献 「AKIRA Japanese DVD」

参考ホームページ 「日立建機 地雷除去への取り組み」

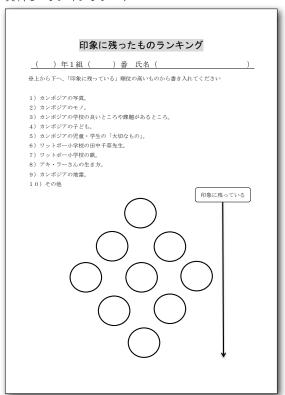
http://www.hitachi-kenki.co.jp/company/csr/contribution/mine/column/tatakai/index.html

参考資料

資料1:振り返りシート



資料3:ランキングシート



資料2:パワーポイント





